

## 令和5年9月市会 本会議代表質問

2023年10月3日

増成 竜治(伏見区)

伏見区選出の増成竜治でございます。私は、4月に行われました京都市会議員選挙におきまして、市民の皆様から4,734票を賜り初当選させていただきました。皆様からは「京都市のために頑張ってください」や「新人らしく若いエネルギーで京都市をさらに良い方向に変えていってや」というお声をたくさんいただきました。

初めての選挙戦を通して公明党の立党精神である「大衆とともに」を深く胸に刻み、市民のためにという思想から一切ブレることなく、誠心誠意働かせていただくという決意をいたしました。

市民の皆様の身近な困りごとを良く聴き、寄り添わせていただく中で、皆様から必要とされ喜んでいただける議員を目指し「調査なくして発言なし」をモットーに日々努力することをまず冒頭にお誓い申し上げます。

それでは、湯浅光彦議員、松田けいこ議員に続き、公明党京都市会議員団を代表いたしまして、市政一般について質問いたします。門川市長をはじめ関係理事者の皆様におかれましては、前向きで誠意あるご答弁をお願い申し上げます。

### 【文化の中でも特に音楽に焦点を当てたまちづくりについて】

千年の都である京都は、多様な文化芸術が息づくまちであります。能や狂言といった伝統芸能や、茶道・華道といった生活文化などの伝統文化だけでなく、小説・映画、現代アートやメディア芸術など、常に最先端の文化を取り入れ育んできたまちであり、そうして形成された文化力は他都市にはない京都の大きな魅力であると考えます。

これまでから本市では文化を基軸としたまちづくりを進めていますが、文化庁が全面的に移転した今、特に音楽に焦点を当て「京都ならではの音楽のまちづくり」についてお尋ねいたします。

音楽には国境が存在しません。音楽は、だれびとも欲してやまない文化の華であり芸術であり、しかも世界共通のことばであります。私は12歳から43歳まで30年ほど地域の吹奏楽団に所属してトロンボーンを担当しながら役員としても活動してきました。

大学時代は先輩に誘われてサルサバンドでも演奏しておりました。多くの仲間と一つの音楽を作り上げるために「練習は本番」「本番は練習」との思いで楽器の練習に明け暮れました。その結果、精一杯演奏した音楽が聴衆の皆様喜んでいただけた時はとても嬉しく、また音楽技術の向上だけでなく人として心の成長が大切であることを、音楽から学びました。

東日本大震災からの「心の復興」を目的とした「希望の絆コンサート」では、岩手県・福島県・宮城県で開催された3回の演奏会にボランティアとして参加させていただきました。復興途中の皆様にも少しでも安らぎと笑顔をお届けしようと力の限り行なった私たちの演奏演技を、涙を流しながら聴いてくださるお姿を見て、音楽の持つ力を目の当たりにした経験がございます。

京都には、国内屈指の存在である京都市交響楽団があり、京都コンサートホールを拠点に高品質のクラシックを市民の皆様提供しているほか、邦楽についても数多くの伝統文化とともに今なお力強く受け継がれ、確固たる地位を築いています。また、堀川音楽高校や10月1日に移転開校した京都市立芸術大学は、世界的指揮者の佐渡裕氏をはじめ、多くの音楽の担い手を育成・輩出しています。

このように京都には、多様な音楽文化が根付き、更に発展する土壌が豊富に存在しており、京都の魅力を向上させ、都市としての成長を図る観点からも、音楽の力を活かした京都のまちづくりを一層進めるべきであると考えます。

そのためには、創作活動や表現の機会を確保し、担い手の育成、とりわけ音楽を志す人を新たに創出する裾野拡大に向けた取組も重要であります。

少し視野を広げれば、京都にはマンガ・アニメ・ゲームなど日本を代表するコンテンツ文化があります。アニメやゲームを入口に新たに音楽に触れ、興味を持つ若い世代も多くいる中、コンテンツ文化と音楽文化との連携強化により、担い手の裾野が拡大するにとどまらず、経済的にも新たな価値を生み出す可能性は大きいと考えています。

実際、マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援や、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者や外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上などを目的とした本市の「京都国際マンガ・アニメフェア(京まふ)」は、本年度で12回目の開催となりました。

この京まふでも、日本のアニメの第一線で音楽を手掛けられている最高の劇伴作曲家が集まり、様々なアニメ作品の映像と音楽の融合を体感できる劇伴音楽フェス「京伴祭」と共催するなど、本市における音楽文化とコンテンツ文化のコラボレーションは進んでいますが、京都の多様な音楽文化とのさらなるコラボレーションを推進することによって、新しいイノベーションを生んでいくよう、力を入れて進めていただきたい。

文化芸術に必要な資源を数多く有する京都市として、京都の魅力・価値向上を図るため、音楽の持つポテンシャルを最大限活用し、担い手の育成から新たな経済価値創出までを網羅する好循環を実現するなど、改めて「音楽を基軸としたまちづくり」を積極的に進めるべきであると考えますが、市長のご所見をお伺いいたします。

### 【不登校対策について】

次に、不登校対策「COCOLO プラン」の推進についてお尋ねいたします。文部科学省の2021年度の調査では、全国の国公私立小中学校で不登校の児童・生徒は約24万5千人と過去最多。一方で、36.3%にあたる約8万9千人は専門的な支援を受けられておらず、不登校が長期化しているというものです。

子どもが不登校になる理由は様々で特定は難しいとされていますが、近年の増加の背景について文科省は、コロナ禍での生活環境の変化や学校生活の制限が交友関係などに影響したことで、登校意欲が湧きにくくなった点を指摘しています。

公明党は、昨年3月に不登校支援プロジェクトチームを設置し、各地の不登校特例校の視察や、関係団体からのヒアリング、保護者の会やスペシャルサポートルームの設置、学習成果の成績評価への反映など、政府への提言を繰り返し行ってきました。

我が党の提言を踏まえ、文科省は本年3月末、不登校の総合対策として「COCOLO プラン」を新たに策定しました。このプランでは、我が党が提言の中で強く訴えていた①不登校の児童生徒全ての学びの場の確保、②心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援、③学校の雰囲気を見える化し、安心して学べる場所に、の3つの柱を掲げています。

プランの具体策としては、指導内容や授業時間を柔軟に決められる不登校特例校の全国300校への拡大や、教室に通いづらい子の居場所を校内に設けるスペシャルサポートルームの設置、学校外にある不登校の公的支援施設教育支援センターの機能強化などを促進するという内容となっております。

「COCOLO プラン」の主旨を踏まえ、私から 2 点指摘をさせていただきます。1 点目は、不登校の児童・生徒にあっては、校内の教育支援センターでの学習や、自宅での ICT 等を活用した学習を評価すべきであると考えます。

これは多様な学びを認め、多様な場を提供するという「COCOLO プラン」の観点にあります。しかし、入試では内申書に欠席日数を記入する箇所があります。学校に行くことが困難であるため、自宅で ICT 等を活用して学習しているにも関わらず、欠席日数が内申書に記入されることは、当該児童・生徒にとっては本意ではないでしょう。

また、そのような児童・生徒を持つ親にとっても、子どものために親として何かできることはないかと非常に心苦しい状況であります。親子とも、この欠席扱いになるというプレッシャーから解き放ちたく、ぜひこの点の改善を求めます。

2 点目は、スペシャルサポートルームの設置についてでございます。設置に関しては、文科省が来年度予算の概算要求に 5 億円を計上し、設置のための補助金に加え、学習指導員を確保するための補助金も拡充することです。このタイミングを逃さず、本市においてもこれらの予算を活用してスペシャルサポートルームの設置を積極的に推進していただきたい。

そこで、内申書における欠席日数の取り扱いの改善と、スペシャルサポートルームの設置についてのお考えをお聞かせください。併せて本市における不登校対策の強化についてのご決意をお聞かせください。

### **【地域公共交通計画の推進について】**

次に、持続可能なまちの実現の 1 つである「公共交通施策」について質問いたします。私の地元、久我・久我の杜・羽東師地域の人口・世帯数の変化をしてみると、これまで人口・世帯とも増加を続けていましたが、令和 2 年度の国勢調査では、初めて人口が減少に転じました。年齢構成をしてみると、昭和 55 年をピークに 15 歳未満の人口と 15～64 歳の人口の割合が減少し、65 歳以上の人口の割合が増加しています。

このような人口減少・高齢化が進む現在において、久我・久我の杜・羽東師地域の皆様から「若い頃は自家用車で移動していたため問題なかったが、高齢になり市バスを活用するようになったことでバス停まで行くことが一苦勞である」とのお声を多くお聴きしました。

山形県鶴岡市では、民間事業者の小型車両による循環バスが市の地域公共交通計画に取り入れられ、2022年10月から新事業としてのバス運行が始まった事例があります。

導入にあたっては、65歳以上の単独世帯が50%以上の区域をリストアップした結果、公共交通の空白地帯の住宅地エリアに循環バスのルートを新設されました。まちなみも人口も本市とは異なるため、単純に参考にすることはできませんが、地域公共交通の主役は市民であるとの思想については、本市も忘れてはいけない事項であると考えます。

久我・久我の杜・羽束師地域では、市バスが主な公共交通機関であるため、「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」と伏見区役所、交通局が連携を図り、市バスの利便性の向上に向けて利用促進に取組、バス利用者増からバス便数増加・路線拡充、さらにバス利用者増という好循環を目指しています。

これは、将来にわたって地域の特性やニーズに応じた持続可能な生活交通を維持・確保していくという今年度策定予定の「京都市地域公共交通計画」における策定目的と全く合致しています。市長には、ぜひ今後とも、久我・久我の杜・羽束師地域の公共交通利便性向上の取組を後押ししていただきたい。

このように、「地域公共交通計画」を主役である市民にとって価値あるものにしていくには、市民に本市の公共交通の現状を理解していただくと同時に、本市が市民の多様なお声を丁寧に受け止めていくという、市民と行政の協働の取組が不可欠です。つまり、市民のお声を受け止めながら、その声を計画遂行に落とし込む取組が不可欠であると強く申し上げます。

そこで、本市の「地域公共交通計画」のポイントと、実効性ある計画推進への方策をお答えください。市民の声を受け止めながら、計画に書かれる取組をさらに推進して、引き続き生活に不可欠な地元住民の皆様の公共交通ネットワークを守っていただきますよう宜しくお願い致します。

### 【向島ニュータウンの活性化について】

最後に、向島ニュータウンの活性化についてお尋ねいたします。向島ニュータウンは、昭和52年4月の入居以降、半世紀近くがたち、この間、同時期に建設された全国のニュータウンと同様、人口減少・高齢化が進み、まちの活力の低下が懸念される

状況です。私自身、幼稚園から結婚するまで向島ニュータウンに住んでいた者として、人口減少と高齢化を肌身で感じております。

京都市ではニュータウンの活性化を掲げ、地域住民や地域の事業者、学識経験者などからなる「向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会」が設置され、7つのワーキンググループでの熱心な議論のうえ、平成29年3月、「向島ニュータウンまちづくりビジョン」が策定され、以後、平成29年から4年間に取り組む具体的事項をまとめたアクションプランに基づく取組が順次進められてきました。

多くの住民の皆様のご要望に基づき、向島中央公園のリニューアルや、国道24号線沿いに商業施設ニトリや西日本で初めてとなるドトール珈琲農園が誘致されるなど、目に見える成果が挙げられていると感じます。

また平成31年4月には、向島中学校と向島南・向島二の丸・二の丸北の3つの小学校を統合した向島秀蓮小中学校が開校し、次世代を担う子供たちを地域ぐるみで育む環境が格段に向上しました。

令和3年2月市会において、当時の曾我修議員が向島ニュータウンの将来にわたっての更なる活性化に向けて、大きく2点の取組を京都市に対して要望されました。1つ目はニュータウン内の住宅の6割以上を占める市営住宅空き室の有効活用についてで、それを受けて向島ニュータウンでは、市営住宅の空き室を活用した障がい者グループホームが開設されました。

既存の空き室を有効に活用し、新たな社会ニーズに応える試みであるとともに、多文化・多世代共生のまちを目指している地域にとっても、新たな住民として障がいを抱える方々を暖かく受け入れるコミュニティの醸成につながる取組であると評価しています。

そして2つ目は、向島中学校跡地の活用についてです。向島中学校跡地は、向島ニュータウンの更なる活性化の起爆剤として活用しうる大変貴重な財産であり、新たな活力を生み出す人口の流入に向けた受け皿としての住宅の整備や、地域医療・福祉の充実のための活用を具体的に進めるよう要望されました。

その結果、「向島ニュータウンまちづくりビジョンの実現に貢献する、医療・福祉・住環境・にぎわいあるまちづくりの共同提案」をコンセプトに、総合病院、特別養護老人ホームの複合施設、戸建て分譲住宅、調剤薬局や地域交流施設、まちかど広場など

が計画されるに至りました。地域住民と行政が話し合いながら、地域にとって使いやすい場にしていくことや、総合病院と住宅を建設することによる連携の効果が発揮できるよう、子育て支援面での連携などが期待されております。

私は、これらの取組をニュータウン再興のリーディングケースとして活かしてもらいたいと考えますが、この市営住宅空き室の有効活用と向島中学校の跡地活用について、本市の現在の進捗と今後の見通しをお答えください。

現在、洛西 SAIKO(さあ行こう)プロジェクトが立ち上がり、先日も中間報告として記者発表もされていますが、その中でも都市計画の見直しや市営住宅の空き室活用など、様々な取組が予定されています。私は既に向島ニュータウンにおいていち早く検討、着手された取組とその成果は、洛西地域のプロジェクトに大きく活かされていくべきと考えます。

そこで、京都市全体の地域再興の一つの範ともなる、向島ニュータウンにおける先導的な取組は途切れることなく更に推し進めていくことが不可欠と考えますが、市長のご見解をお伺いいたします。

### **【市営住宅における公園の魅力向上について】**

最後に一点要望させていただきます。子育て中のお母さんから「子どもたちを安全に遊ばせることができる公園があればありがたい」というご意見を多くお聴きしており、市営住宅への若者・子育て世代の移住・定住には、市営住宅敷地内の公園の再整備が有効であると考えます。

市営住宅敷地内の公園の魅力向上にぜひ取り組んでいただけるよう要望して、私の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。